

一般に「孤立死」は増えていると考えられるが、実は定義が難しく国による統計もない。11年前に故人の遺品整理業を創設した業界大手「キーパース」(東京都)の吉田太一社長に、孤立死の現状や背景を聞いた。

—遺品整理とは、どんなサービスですか。

「葬儀が残された人の精神的な区切りを付けるのに対して、遺品整理は亡くなった人の生活の痕跡を世の中から無くす仕事。従来は遺族が家具や衣類、生活用品を片付けていたが、最近では子供がいなかったり、いても遠方だったりして、無理なケースが多くなった」

—孤立死の問題点はどこにありますか。

「人はいつか亡くなるも

のだが、孤立死は遺族に精神的負担を強いて、法的手続きなど片付けの手間も大きくなる。部屋を貸している大家に迷惑がかかり、近隣住民も気持ちの悪いものではない。社会的損失は大きい」

—孤立死は、どれほどあるのでしょうか。

「当社は年間1500件ほど遺品整理を手掛けており、そのうち100〜200件を孤立死と推定している。これは、一人暮らしで近所付き合っても薄く、死後しばらくたってから発見されたと思われるケースだ。国の統計がないため、全体

遺品整理業 吉田太一氏に聞く

◇よしだ・たいち 1964年、大阪市生まれ。調理師や運送業などを経て、02年「キーパース」設立。著書に「遺品整理屋は見た!」(扶桑社)など。



像を正確に把握するのは難しい」

—子どもがいない人が増え、孤立死の増加が予想されます。

「孤立死した人は、未婚や離婚による独り暮らしの男性がほとんど。現在の独身者の多くは今後も結婚しないとみられ、この先、孤立死は増えるだろう」

「ゲーム機やテレビの普及で、1人でも過(か)せるようになった。中食産業の

発達も、孤立化を招く背景だ。そうした生活ぶりが残った部屋が目立つ」

—どんな人が孤立死に至るのですか。

「男性が8〜9割を占め、特に50代後半〜60代前半が「危険ゾーン」。女性はコミュニケーション能力が高く孤立しにくいようだ」

「仕事の話しか持たない男性は、失業すると一気に友人を無くす。引きこもって酒に浸り、そのまま社

会と隔絶してしまう。部屋は、持ち帰り弁当やカップめん(カップめん)の容器などで足の踏み場もないケースが多い。部屋が汚いから人を呼べず、ますます孤立する」

—孤立死を防ぐには。

「配偶者がいれば、1日30分でもいいから仕事以外の会話を。職場や家庭以外に仲間をつくるのも良い。仮に孤立死しても、早く見つけてもらえる」

「自分の死後、どうしてほしいか、はっきり示しておくことも大切。当社は財産分与や葬儀の方法などを記す『おひとりさまでもだいじょうぶノート』を無料配布する活動をしている」

(鹿本成人)

2013.5.15

孤立死の8〜9割が男性

くまもとの
明日
KUMAMOTO FUTURE
第3部